

緊縛女装 兄への劣情



お嬢の男

R-18  
成人向



緊縛女装

兄への劣情



はい  
おじいさま...

帰ったか  
浩二

ガラ

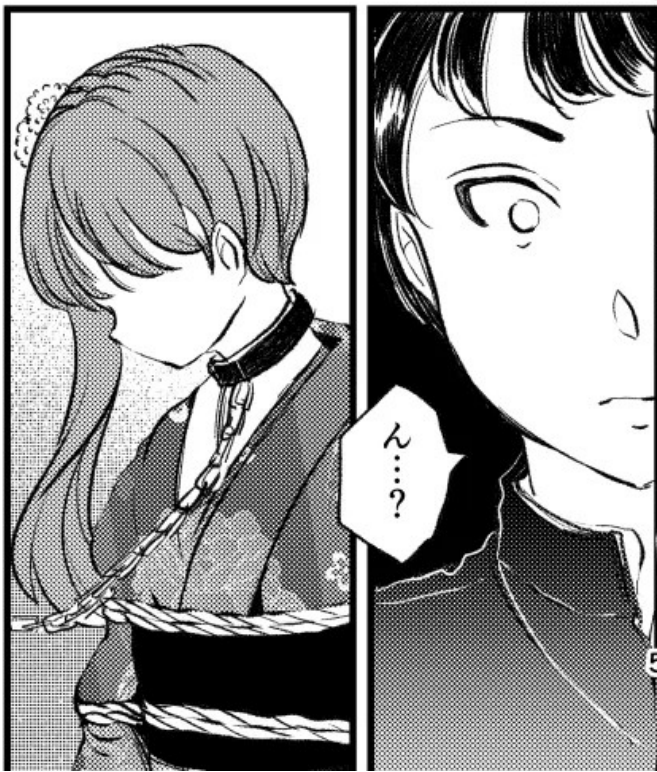


まだわからぬか  
浩二  
こいつが誰なのか



ジジイの  
新しい愛人か...

首輪に縄で緊縛  
あいかわらず  
やることが  
えげつない



ん...?



兄のこの姿を見た時  
オレは自分の胸が  
高鳴るのがわかった

恭一兄さん

オレの家  
十津川家は  
代々性豪が生まれる  
家だった

しかしまさか  
孫にこんなことを  
させていたとは…

祖父の性欲は凄まじく  
子を産ませることを  
避けるために  
愛人は少年とすること  
が多かった

恭一は本当に  
ちんぽをしゃぶるのが  
上手いのう…

すっかり  
おフェラが上手く  
なりおって





小さい頃から  
何かと比べられ  
劣等感に  
オレは苦しんでいた



兄の恭一は  
容姿端麗で勉強もでき  
オレより遥かに  
優れていた

性格も穏やかで  
人の受けも良い



その兄が  
オレの目の前で  
淫らな姿を  
晒している

ズブ  
ズブ



オレは  
ブリーフ二丁になった

この家では年上の  
言うことは絶対だった

なんなんだ...

浩二ズボン  
脱ぎなさい

ハヤ



理不尽なことであっても  
年上の言うことは  
絶対である



おじいさまっ  
それはっ

ワシの言うこと  
がきけんのか



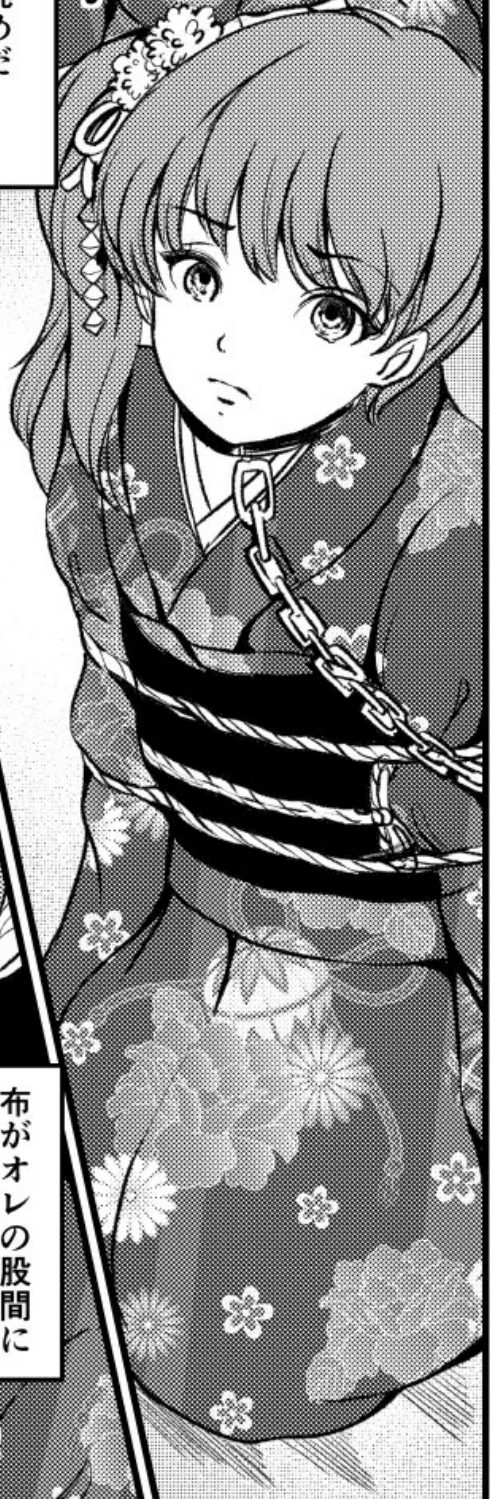


兄さん…

いい眺めだ  
オレが兄を  
見下ろしている



兄はブリーフを啜え  
ずり降ろしていく



股間に刺激が…

刺激が…

布がオレの股間に  
擦り付けられ



耳の窪みに  
オレのちんぽが  
はまった

スプ...

やめろ!!

ギリッ

びびび!

わしに口ごたえとは  
困った奴だ...

自分の舌なのか  
オレのちんぽを  
なのか...  
物騒なことを言う

おじいさま!!  
これ以上やらせるなら  
噛み切ります!!

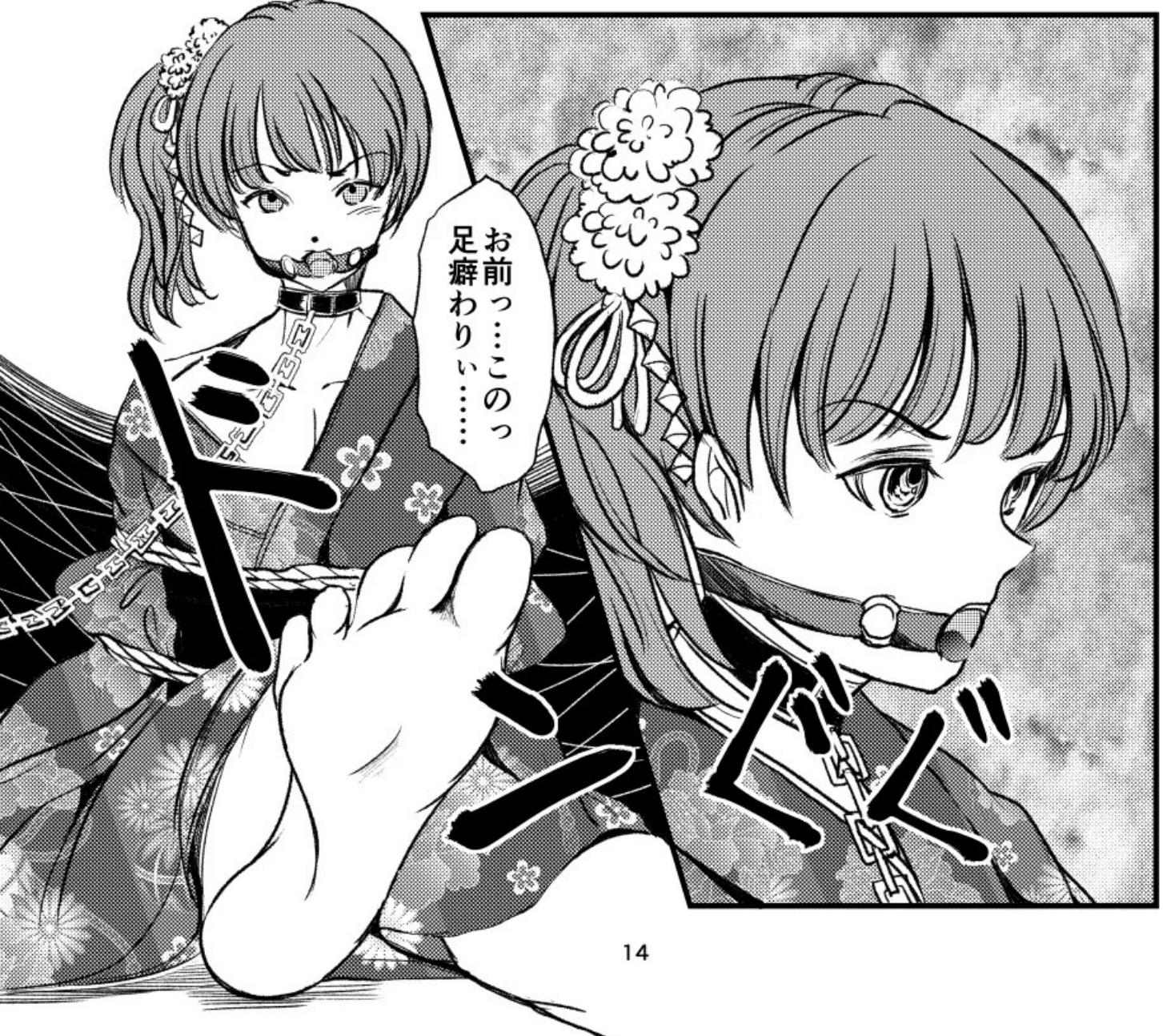


ほっほっ  
マゾ豚用の口枷が  
よう似合っているぞ  
恭一

兄の口は  
性器にされたのだ

口の奥の奥まで  
見える…  
なんのため  
ものなのか  
一目瞭然だった







ほれ  
逃げてみる



まったく  
どうしようもない  
じゃじゃ馬め



ハッ



悪い足には  
お仕置きじゃ



みるみるうちに  
ジジイに下肢を  
縛り上げられていく



鮮やかな手並みで  
棒を足にねじ込まれ



なんて姿だ…

あ…ああ…  
恭一兄さん…



ただ己の穴を差し出すだけの肉塊となっていた

みだらでいやらしい姿に成り果てた兄は

ふる

ふる

びん  
びん  
びん

びん  
びん  
びん

ふる



兄さん  
いれ慣れて  
いるんだね…

もう2本も  
飲み込んで  
しまったよ

ぐんぐん



アナルは  
出す時に  
気持ちいいんだってな



めくられて  
いやらしい…



そろそろ  
いいだろ兄さん

ちんぽ  
いれてもさあ







オレは  
兄さんを犯している

ああ兄さん...

オレのちんぽを  
兄が飲み込んで  
いる



オレは兄さんと一つに  
なっっている

兄さん

兄さん



キスしていい?

兄さん

はあ

はあ

まるで女のように  
涙を湛えている  
今なら...



なんでなんだよ...!!

なんで...



ふい  
ふい



ここまで  
やられて  
今更キスぐらい…

そんなに  
オレが…  
いやなのかよ…



ああ  
ああ  
ああ



ツジイの  
愛人のくせに…

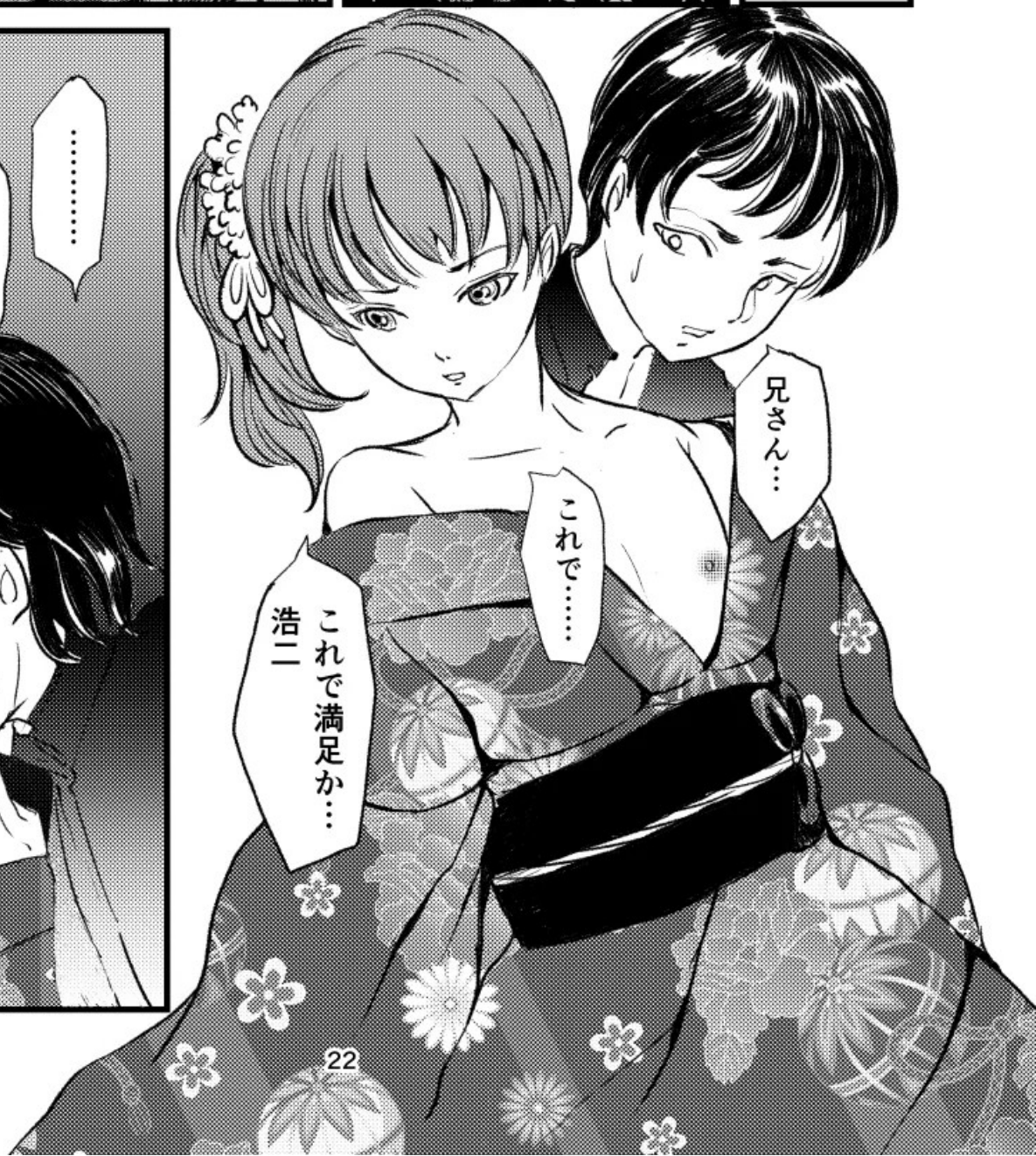


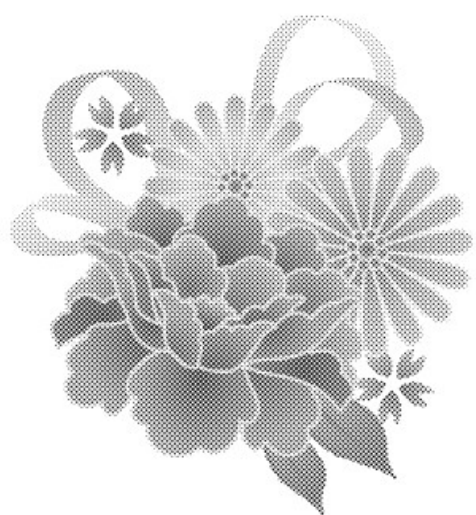
お前の穴は  
全部オレのものだ

ぶ  
ぶ  
ぶ

いや……

ぶ  
ぶ





ここまで読んでくださってありがとうございます。  
矢座だいちです。

今回は自己満足ですが和紙の表紙に和綴りに和紙の遊び紙と装丁に凝ってみました。  
現時点でそれらの装丁はまだできていないので、どんな風になるのかわからないのですが、  
いい感じに仕上がったらなああと祈っているところです。

これ、仮に再販になったらさすがに再販分は和綴じにならないです。そういう意味では  
初版特典です。再販しなくてすむ程度には充分に刷るので、再販はないとは思いますが。

このお話は二〇一五年の夏と冬のコミケに出した「性奴女装少年」というシリーズに  
出てくる十津川家の長男と次男の10年くらい前のお話です。

「性奴女装少年」では恭一少年は立派な体格の青年となり、祖父並みの性欲を  
もてあまし、男の娘の愛人を持つことになります。

そちらの話で男の娘を抱いた後に自己嫌悪に陥るのですが、その理由はかつて祖父にやられたことを  
やったしまったことの罪悪感からだという。

弟の十津川浩二はずっとお兄ちゃんのが好きですが、その気持ちは10年たっても伝わらず、  
兄に屈折した態度で接するほかはないという有様です。

基本的に十津川家は年長者の言うことが絶対なので、祖父の権威がなければ兄を抱くことなんて  
できません。けっこう立場が弱い…。

ジジイは今回も10年後もずっとろくでもないです。

という感じなのですが、「性奴女装少年」を読まなくてもまったく問題ない本ですのでお気軽に楽しんでいただければと  
思います。

この二人の話は自然とネームができていく感じなので、また機会があれば描いてみたいなあと思っております。

二〇一六年七月 矢座だいち





初版：2016/7/3

サークル名：廃棄物

発行者名：矢座だいち

印刷：アクシス出版株式会社

サイト：<http://b.dlsite.net/RG16971/>

pixiv：<http://www.pixiv.net/member.php?id=24656>

メールアドレス：daichi@sy.dojin.com

Twitter：dai\_was

※成人向けです。未成年者の閲覧、購入を禁じます。